その渦触れるべからず

鎖鎌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
その渦触れるべからず

【Ｎコード】
Ｎ３７８３ＢＡ

【作者名】
鎖鎌

【あらすじ】
俺は死んで、名前がなくなった。自分を示すものはこの身体一つ。でも、どうしてこんなことに。俺の両腕には――――――――とある忍者の『武器』があった。

魔法世界、グレートブリッジでの戦いは静寂に包まれていた。
恐怖や驚愕といったものでなく、物理的に物音が出せない状態にさせられているのだ。
兵士も指揮官も例外なく地に伏せ、それどころかその地面すら削られている。
グレートブリッジ、その中央を覗いて。
それを見たものは目を疑っただろう。
グレートブリッジの中央に現れたもの。
『鎖』だ。
『鎖』は瞬く間に球形となり、
――――その質量を爆発させ、蹂躙を開始した。
橋の両端を越し、両軍を巻き込みながらなお巨大化する。
数十秒の蹂躙の後、『鎖』は幻の如く消え、残るは一人の男。
「てめえ、何もんだぁーーー！！」
ナギ・スプリングフィールドはその男へ叫ぶ。

その男は黒い服装に身を包み、黒い髪を風になびかせている。
まるで覇気を感じない。それでもヤバいと、自分の勘が警鐘を鳴らす。

「ナギ、大丈夫ですか！！」
「無事か、ナギ！！」
仲間たちが合流する。
その時、初めて男が反応を示した。
「――――ああ、お前たちが『紅き翼』か」
やはりそこに威圧はない。だが、不安は晴れない。危機感が増しただけだ。
「俺が誰、だったか。お答えしよう」
男はそう言って、両腕を振り上げた。腰の武器といっしょに（・・・・・・・・・・）。
「人外異形怪物集団『ヒトデナシ』。諜報暗殺部隊『真庭忍軍』十二頭領が一人」振り上げた両腕には『鎖』、それは腰の武器、二本の『忍者刀』に繋がっていた。
「真庭喰鮫。人呼んで通称――――」
二本の凶刃は光を反射し、鈍く煌めく。

――――『微塵の喰鮫』、ただの人外さ

今まさに、英雄と人外の永き渡る戦いが始まった。

（後書き）

一応このようなものを考えております。アドバイス等あれば何とぞよろしくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3783ba/

その渦触れるべからず

2012年1月9日21時47分発行